

矢崎グループの森林づくり

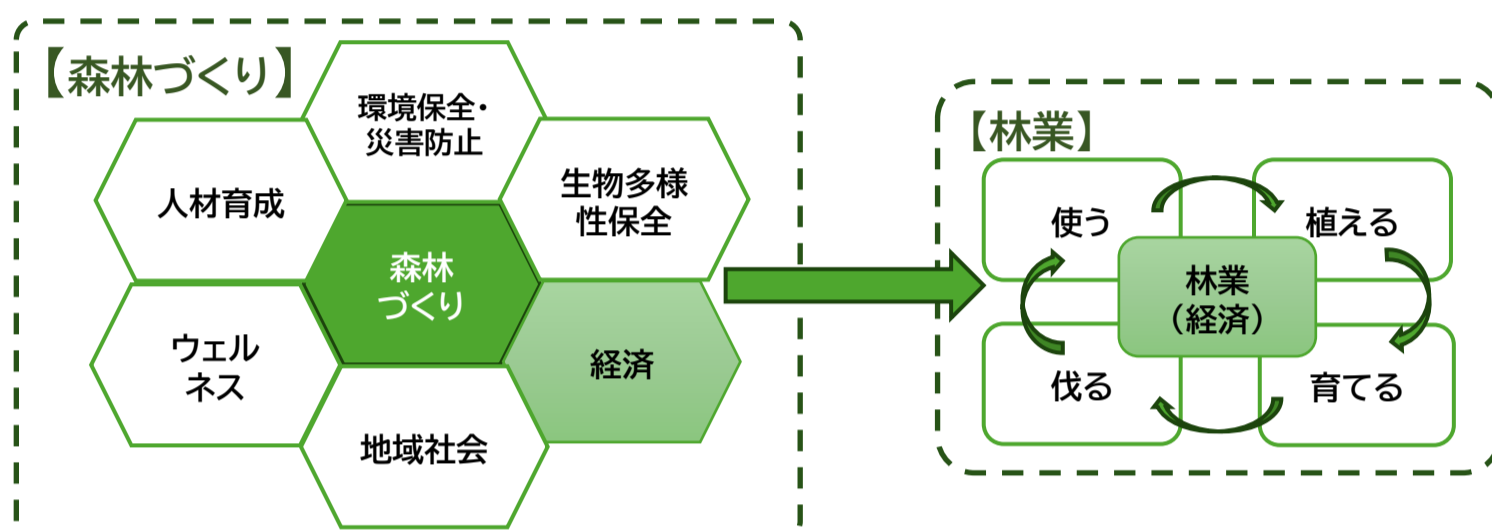
実施中

2006年～取り組み開始
2023年～事業開始

～自然との共生・地域循環型社会の実現～
地域・自然と共生するビジネスモデルを構築し、
持続可能な企業経営のもと森林保全に永続的に貢献する

背景・課題

1 矢崎グループが目指す森林づくり



一般的な「林業」に対し、高知県梶原町で矢崎グループが取り組んでいる「森林づくり」は、経済的な林業の枠を超え、①企業の社会的責任、②企業人格形成の場、③地域社会との共生を軸とした取り組みである。

2 矢崎グループと梶原町のつながり

梶原町 概要

梶原町は、「先人の知恵に学び、自然との共生と循環型社会の実現」という基本理念を軸に、森林との真の共生をめざし、未来の子どもたちに大切な地球環境を残す“森林の再生”に取り組んでいる

四国カルストに抱かれた自然豊かな小さな町

- ・ 面積:23,645ha(91%が森林)
- ・ 人口:2,994人
- ・ 世帯数:1,648世帯
- ・ 標高:1,455m (2026年2月末時点)



1991年	四国部品(株) 梶原製造所 開設
1997年	海外でのものづくり進行 → 国内生産拠点の生産数激減・閉鎖が進む
2006年	梶原町木質バイオマス地域循環利用事業プロジェクト 発足
2008年	ゆすはらペレット(株) ペレット工場 稼働開始
2018年	森林管理制度 開始 森林再生プロジェクト 開始
2023年	四国部品(株) 森林づくり(造林)事業 開始

矢崎グループの森林づくり

背景・課題

3 梶原町における地域課題

町の91%を森林が占める環境のなかで、林業における以下の課題を抱えていた



高齢化

▶林業従事者の約半数が60歳以上



担い手不足

▶都市部への流出による人口の空洞化

4 取り組み意義

矢崎グループで造林事業に参入し、各ステークホルダーの課題を解決し、持続可能な森林管理および矢崎グループの事業永続に寄与

実現したいこと

- 1) 造林作業の安全面向上、省人・省力化による3K林業からの脱却
- 2) 自動車事業と林業の垣根を超える新たな価値・新規事業の創出
- 3) サーキュラーエコノミーの実現

5 森林の多面的価値と企業への好影響

森林の有する多面的価値



森林が企業へ与える好影響

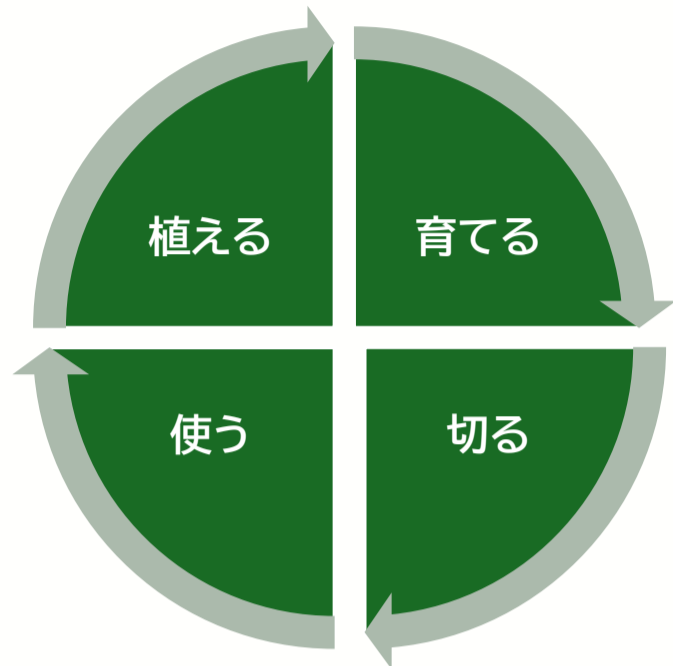


矢崎グループの森林づくり

課題への解決・特徴

6 造林事業を土台とした課題解決アプローチ

- 1 作業の安全/省力/効率化
- 2 資材費低減/付加価値創出
- 3 木材価値の向上



森林サイクル

7 活動事例

造林作業の付加価値創出



造林プロセスの見直し
(作業効率化、生産性向上)

新たな木材価値・需要創出



自動車部品へ活用

造林事業



施工面積拡大
多拠点への展開

活動PR



林業従事者専用車の開発
(3K 改善、安心・安全・快適)

保護ネット研究開発



単木保護ネットの内製化
作業効率向上・コスト低減

木製品製作



社内記念品への木製品活用
(悪天候時の収益確保)

矢崎グループと地域をつなぐ地域課題解決を目指す